



**?** 次の場面を探してみよう! 次の場面は、ア～カのどれに当たるか、( )に記号を入れてみよう。

- ① 町の入り口で、多くの人々が集団で訴えを起こしています。( )
- ② 町の代表者が、お茶を飲みながら話し合いをしています。( )
- ③ 馬が、荷物を背に載せて運んでいます。( )
- ④ 貨幣を使って、買い物をしています。( )
- ⑤ 中国へ向かう大きな船が、港に停泊しています。( )
- ⑥ 牛の力を使って、農作業を行っています。( )

**ヒント** ①→p.94 ②→p.95、100 ③→p.93 ④→p.93 ⑤→p.86 ⑥→p.92

A

B

C



1

2

3



室町時代といわれる時代にやってきました。ここは大阪湾に面したある港町です。いろいろな物が船で運ばれてくるためか、各地からやってきた人々がさまざまなやりとりをしています。

### 見方・考え方

鎌倉時代から室町時代に移り変わって、どのような点が変わっているのでしょうか。また、なぜそのように変化したのでしょうか。例えば以下の点などに注目し、周りの人と話し合ってみましょう。

- ・人々が使っている木の容器の種類
- ・場面やなど、集まって活動する人々

対話

屋敷のなかの風景は、現在の和室や日本文化と似ているかも。具体的に、どんな所や物が今と同じかな。



D

E

F





3節の問い なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか。



←1 定期市の様子 備前の福岡(岡山県 瀬戸内市長船町)で開かれた市が描かれています。瀬戸内海や山陽道を通じて運ばれてきた、さまざまな物資が売買されています。  
 [「一遍上人絵伝」 神奈川県 藤沢市 清浄光寺(遊行寺)蔵]  
**資料活用** どのような商品が売られているか、読み取ろう。

市には、どのような人々がいるのかな。



1 技術の発達とさまざまな職業

未来に向けて

結桶から見る 技術の発達

情報・技術

従来、食品の容器はかめや曲げ物(薄い板を筒状に曲げて底に板をつけた容器)などであったため、液体を大量に生産・輸送するには適しませんでした。技術の発達によって登場した、水漏れしない丈夫な結桶や結樽は、醸造業や海運業の発達に大きな影響を与えました。

↓2 結桶師 [「職人尺絵」 埼玉県川越市 喜多院蔵]



学習課題

鎌倉時代から室町時代にかけて、産業と交通はどのように発展していったのだろうか。

多くの作物を得る工夫

14世紀には、気温の低下や降水量の増加により、飢きんや災害がたびたび起こりました。そのなか

で人々は、新しい土地の開墾とともに、より多くの収穫を得るために努力と工夫を重ねました。鎌倉時代から始まった米と麦などの二

毛作は、室町時代には西日本を中心に広がり、飢きんに強い品種も

増加しました。また、草木を焼いた灰や人の糞尿を肥料に使うようになり、牛馬による耕作も広がりました。稲作に必要な用水を

確保するため、水車によって河川から水を引いたり、ため池をつくったりするかんがいの技術が広く普及しました。そのほか茶・

藍・麻の栽培や桑による養蚕も広まり、農業生産力が高まりました。

さまざまな職業の登場

生産力が向上した室町時代には、職人の種類が飛躍的に増加しました。16世紀初めの絵巻物には、

鍛冶屋や結桶師など100種類以上もの職人の姿が描かれています。

手工業の発達によって、西陣(京都市)・博多(福岡市)の絹織物、越前(福井県)・播磨(兵庫県)・美濃(岐阜県)・奈良などの紙や、備前

(岡山県)・美濃・京都・奈良の刀、瀬戸(愛知県)の陶器など、各地

絵巻物に描かれている子どもの姿を調べると、中世の子どもは、半ば遊びながら大人の仕事を手伝い、見習っていたことが分かります。なかでも、子どもにとって身近だったのは老人(高齢者)でした。老人は、子守などの育児を担っていたため、同じことを何度も聞きたがる子どもに、繰り返し話を聞かせました。こうして昔からの知恵や知識は、老人から子どもへと伝えられたのです。また、子どもも、体が不自由になりがちな老人の世話や介護を担っていました。老人と子どもは、このような互いの働きかけにより、とても親密な関係にあったのです。

一方、古代から中世にかけて女性の地位は高く、財産をもつことや相続することも認められていました。また奈良時代までは、生まれた子は母親に属すると考えられていました。そのため、母方の姓を名乗る人も多く、『万葉集』(→p.49)などによれば、娘の結婚には母親の承認が必要でした。鎌倉時代以降に商業が発達し、市などが各地にできると、外で商いをする女性も数多く登場しました(→p.90B3)。中世までは、このような女性の地位や権利が広く認められていました。



←3 老人を助ける子ども 絵巻物には、子どもと老人がよく一緒に描かれています。【『法然上人絵伝』京都市 知恩院蔵】



←4 大原女 炭の産地であった京都北部の大原から、薪や炭などを頭上に載せて都まで売りに来ていた女性たちです。頭に手ぬぐいを巻き、筒袖をつけた独特な姿は、燃料に乏しかった都の人たちの心をとらえました。【『職人尽歌合(七十一番職人歌合)』(模本、部分) 東京国立博物館蔵】

にさまざまな特産物が生まれました。また、輸出品にもなる硫黄や金・銀・銅・鉄などを採掘する業者も育ちました。一方、一部の職業に就く者たちは河原者とよばれ、けがれているとして差別する見方も強まってきました。

**盛んになる交通と定期市**

宋銭に続き明銭も大量に輸入され、貨幣はますます流通していきました。朝鮮・中国・琉球など

からの輸入品も増加しました。また、鎌倉時代に各地で始まった月3回の定期市も、室町時代には月6回に増えました。こうした市や地方の町や村には、行商人たちが行き来して商いをしました。陸上の運搬では、馬借や車借といった運送業者が活躍し、海運や河川の交通も盛んになりました。瀬戸内海や日本海には年貢や商品を運ぶ大型の船が行き交い、各地の港町では問(問丸)などの運送業者が活躍しました。こうした交通の発達に目をつけた幕府や寺社は、交通の要所に関所をつくって通行税を取り立てました。しかし、関所の増加は、しだいに流通経済の妨げになっていきました。

商業や手工業の発達に伴って各地の都市も発展し、京都・奈良などには、土倉(質屋)や酒屋がたくさんできました。彼らは高利貸し(金融業)を営んで大きな富を蓄えました。幕府は、土倉や酒屋に規制と保護を加えて税をとり、重要な財源としました。



↑5 牛耕 牛の活用により、土壌をより深く耕せるようになりました。【『松崎天神縁起絵巻』(部分) 山口県 防府市 防府天満宮蔵】

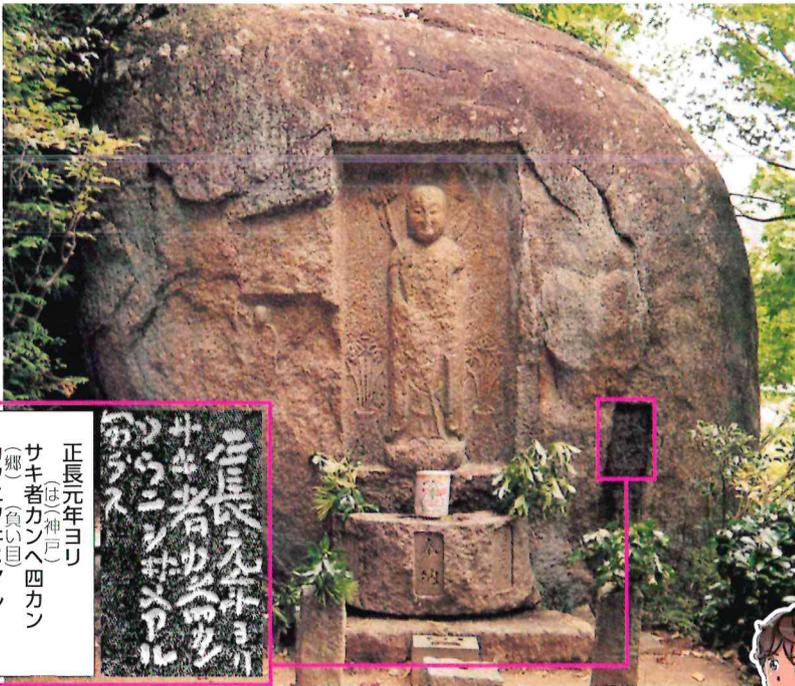


↑6 馬借 馬に荷を乗せて運ぶのが馬借、牛などに車を引かせて荷を運ぶのが車借です。【『石山寺縁起絵巻』(模本、部分) 東京国立博物館蔵】

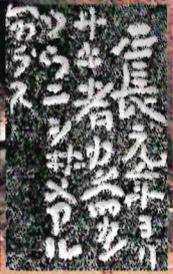
人々が収穫を増やすために行った工夫を、本文から書き出そう。

収穫を増やす工夫によって、産業や交通にどのような変化がみられたのか、説明しよう。

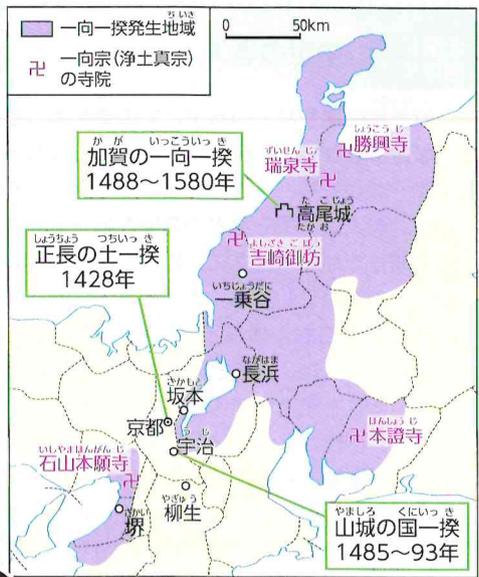
縄文
弥生
古墳
飛鳥
奈良
平安
鎌倉
南北朝
室町
戦国
安土・山
江戸
明治
大正
昭和
平成
令和



正長元年ヨリ  
サキ者カンヘ四カン  
カウニヲ中メアル  
ヘカラス



↑1 正長の土一揆の成果を記した碑文 1428(正長元年)、人々は土一揆を起こし、土倉や酒屋を襲いました。碑文の「負目」とは借金のことです。[奈良市教育委員会提供]



↑2 主な一揆 地図帳活用



正長の土一揆は、どのような人たちがなげ起こしたのかな。

## 2 団結して自立する民衆

3節の問い なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか。



学習課題

人々は、自分たちの目的を成し遂げるために、どのような行動を起こしたのだろうか。

### 民衆たちの一揆

室町時代になると、武士から庶民までが「自分たちのことは、自分たちの力で解決する」という考え方によって行動するようになりました。人々は、一人では実現が難しい目的を成し遂げるために、タテのつながり(主従関係)とは別に、共通の利害をもつ者どうしのヨコの結びつきを強めました。その代表的な結びつきが、さまざまな一揆です。一揆のときには、全員が平等の立場で神仏の前で誓い合い、共に行動しました。

1428(正長元年)年には飢きんや天皇・将軍の代替わりが重なったため、近江国(滋賀県)の馬借が中心となり、幕府に徳政令による借金の帳消しを要求して土一揆を起こしました(正長の土一揆)。土倉や酒屋を襲い、土地売買や借金の証文を破り捨て、質に入れた品物を奪いました。また、山城国(京都府)の南部では、武士や農民が協力して守護大名の畠山氏の軍勢を追い出し、8年間にわたって自治を行いました(山城の国一揆)。さらに、一向宗(浄土真宗)が蓮如の活動によって北陸・近畿地方の武士や農民の間で急速に広まってきた、信徒たちによる一向一揆が起こりました。加賀国(石川県)では守護を倒し、約100年間にわたって自治を行いました。

←3 一向一揆の旗 団結して、命懸けで戦う決意を示しています。[広島県 竹原市 長善寺蔵]



### 加賀の一向一揆

加賀国の一向宗の信者たちが武士たちと争いを起こした。武士たちはすべて国の中央部から追われてしまった。守護代も武士に味方したため、討たれてしまった。

【『大乘院寺社雜事記』より、一部要約】

守護は百姓たちが取り立てた人物だったので、百姓たちの力はどんどん強くなり、近年は百姓が支配している国のようになっている。【『実悟記拾遺』より、一部要約】



↑4 祇園祭の様子 京都は応仁の乱(→p.96)で荒れ果てましたが、町衆の願いにより祇園祭は復興し、いっそう華やかになりました。【洛中洛外図屏風】山形県 米沢市 上杉博物館蔵 **資料活用** 図のなかから以下のものを見つけてみよう。①祇園祭の山鉾 ②山鉾を見る身分の高そうな女性たち ③傘を持った僧侶 ④銭をもって売買する人

## 村の自治

室町時代の近畿地方の村々では、農民が団結して、地域を自分たちで運営する惣(惣村)がつけられました。

寺や神社(鎮守)では村の有力者たちによる寄合(集まり)が開かれ、独自に村のおきてをつくったり、罪を犯した者を処罰したりしました。また、祭りを取りしきり、用水や山野を維持・管理して、村が年貢の納入を請け負ったり、耕作を放棄して年貢を減らすよう抵抗したり、村の境界をめぐる領主と交渉したりしました。時にはいくつかの村が連合して、村人を戦乱から守ることもありました。こうした村の自治は、後の江戸時代まで引き継がれていきました。



↑5 菅浦(滋賀県 長浜市) この集落には、中世の惣村の面影が残っています。集落の境界には門や寺院があり、外から悪いものが入ってくるのを防ぐ役割を果たしていました。

## 都市の自治

都や幕府が置かれた京都・奈良・鎌倉(神奈川県)のほかに、堺(大阪府)・博多(福岡県)などの港町、大きな寺社の周りに門前町が生まれました。こうした都市では、商業・手工業が発達し、商工業者たちは座という同業者の団体をつくって、公家や寺社に税を納める代わりに営業を独占する権利を認められました。都市の商工業者たちも、寄合を開いて町の自治を行い、幕府や守護大名などの干渉をはねのけました。応仁の乱から復興した京都や、日明・日朝貿易で栄えた博多や堺の町衆とよばれる富裕な商工業者たちは、その代表的な存在です。日蓮宗は、町衆などにあつく信仰され、都市の自治を精神面で支えました。

### 村のおきて

(1448年 近江国今堀郷(滋賀県))

- 一、寄合の知らせを受けても、二度出席しなかった者は、50文の罰金とする。
- 一、森林の苗木を切り取った者は、500文の罰金とする。
- 一、若木の葉を取ったり、桑の木を切ったりした者は、100文の罰金とする。

【『今堀日吉神社文書』より、一部要約】



確認しよう

各地で起こった一揆を、本文から書き出そう。



説明しよう

室町時代の人々の考え方を、「自分たちの力」「結びつき」という言葉を使って説明しよう。

縄文
弥生
古墳
飛鳥
奈良
平安
鎌倉
南北朝
室町
戦国
安土桃山
江戸
明治
大正
昭和
平成
令和



重文

↑1 応仁の乱 集団で行動する歩兵の足軽が活躍しました。【『真如堂縁起』京都市 真正極楽寺蔵】**小地公**

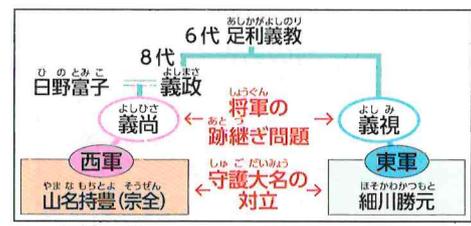
武士の戦い方は、鎌倉時代(→p.81)と比べて何か変わったのかな。



### 3 全国に広がる下剋上

3筋の問い なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか。

**解説** 下剋上  
下の身分の者が上の身分の者を実力で倒して、権力を握ることをいいます。



↑2 応仁の乱の対立関係(開戦当初)



↑3 応仁の乱による京都の被害 **地図帳活用**



学習課題

応仁の乱をきっかけとして、社会はどのように変わっていったのだろうか。

#### 応仁の乱と下剋上

15世紀半ば、有力な守護大名が、8代将軍足利義政の跡継ぎをめぐる争いを始めました。これに幕府の実力者細川氏と山名氏の勢力争いが複雑に結びつき、1467(応仁元年)、多くの守護大名を巻き込む戦乱となりました(応仁の乱)。11年に及ぶ戦乱で、京都の大半は焼け野原になりました。戦乱は地方にも広がったので、幕府の政治に参加するために京都にとどまっていた守護大名の多くは、自分の領地を守るため領国へ戻りました。

しかし、彼らを待ち受けていたのは、さまざまな一揆や地方武士の反乱でした。そして、守護大名の一族やその家来から、実力で守護大名に取って代わろうとする者が現れてきました。このような下剋上の風潮が、応仁の乱をきっかけに全国に広がっていきました。

#### 各地で争う戦国大名

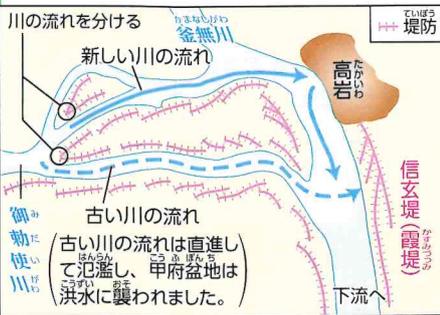
地域ごとの争いが続き、幕府の影響力は弱まっていきました。各地には、幕府の支配から離れて、領国と領国内の民衆全体を独自に支配し、また領国内の武士を家臣として組織した戦国大名が登場しました。戦国大名の出身は、守護大名やその家来、地方の有力武士であった者など、さまざまでした。こうした戦国大名などが、領国支配の拡大を目指して各地で争いを

甲斐(山梨県)の武田信玄は川の氾濫を防ぐため、堤防で直接せき止めるのではなく、流路を変え岩にぶつけて勢いを弱め、切れ目のある堤防で少しずつ水を逃がすようにしました。このしくみで甲府盆地での洪水の被害は大きく減り、新田開発が盛んに行われました。



←4 武田信玄 (1521~73)  
〔和歌山県 高野山 持明院蔵〕

↓5 信玄堤 堤防は江戸時代にかけてしだいにつくられました。



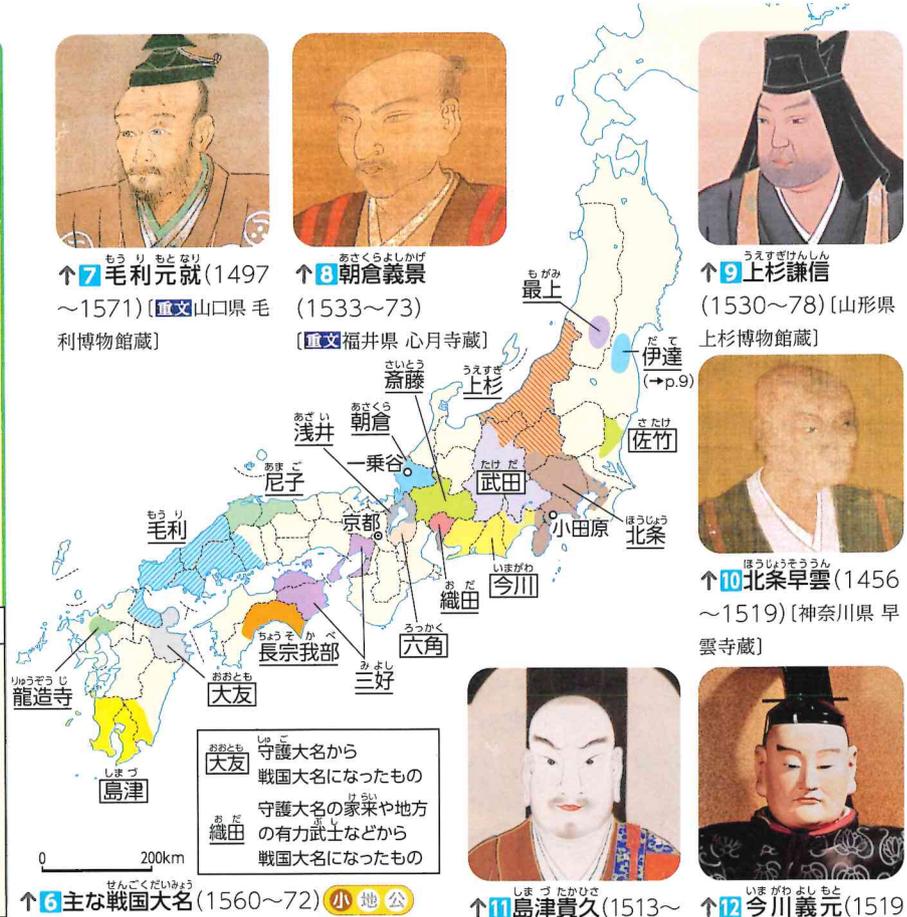
↑7 毛利元就 (1497~1571) [重文 山口県 毛利博物館蔵]



↑8 朝倉義景 (1533~73) [重文 福井県 心月寺蔵]



↑9 上杉謙信 (1530~78) [山形県 上杉博物館蔵]



↑6 主な戦国大名 (1560~72) 小地公

守護大名から戦国大名になったもの  
守護大名の家来や地方の有力武士などから戦国大名になったもの



↑10 北条早雲 (1456~1519) [神奈川県 早雲寺蔵]



↑11 島津貫久 (1513~71) [鹿児島県 尚古集成館蔵]



↑12 今川義元 (1519~71) [静岡県 臨濟寺蔵]

続けた15世紀末からの約100年間を、戦国時代といいます。戦国大名は荘園領主の支配を否定し、領国内の荘園を次々に奪ったため、天皇や公家・大寺社の力は、急速に弱まっていきました。

戦国大名は強力な軍隊をつくり、各地に堅固な城やとりでを築きました。産業や経済の発展にも力を入れ、武田信玄によってつくられたとされる堤防をはじめ、大規模な治水・かんがい工事を行い、耕地を広げ、年貢などの収入を増やしました。また石見銀山(島根県)など、金山・銀山の開発にも力を入れました。そして、朝倉氏の一乗谷(福井県)、北条氏の小田原(神奈川県)などに代表されるような城下町をつくり、城の周囲に家臣を住ませ、商工業者たちを呼び寄せました。さらに、律令や御成敗式目とは別に分国法とよばれる独自の法律をつくり、領国内の武士や農民らを厳しく統制しようとしました。

16世紀後半には、領土を拡大し、領主同士の紛争や一揆をおさえ、より強大で新しい領国支配を打ち立てようとする気運が高まりました。そして、全国統一を目指す戦国大名が現れるようになります。

分国法  
一、本拠である朝倉館のほか、国のなかに城を構えさせてはならない。領地のある者はすべて一乗谷に移住し、村には代官くらいを置くべきである。  
[[朝倉孝景家系]]より、一部要約・抜粋  
一、今川家の家臣が、自分勝手に、他国より嫁や婿をとると、他国へ嫁を嫁に出すことを、今後は禁止する。  
[[今川仮名目録]]より、一部要約・抜粋  
一、けんかをした者は、いかなる理由によるものでも、処罰する。  
[[甲州法度之次第]]※より、一部要約・抜粋  
※武田氏の家法

確認しよう  
どのような人々が戦国大名となったのか、本文から書き出そう。  
説明しよう  
戦国大名が領国を強化し、領国内の人々を統制するために行ったことを説明しよう。

縦文  
1 弥生  
2  
3  
4  
5 古墳  
6  
7 飛鳥  
8 奈良  
9  
10 平安  
11  
12  
13 鎌倉  
14 南北朝  
15 室町  
16 戦国  
17 安土・焼山  
18 江戸  
19  
20 明治  
21 大正  
昭和  
平成  
令和



↑3 銀閣(京都市 慈照寺) 足利義政がつくらせた銀閣は簡素な美を追求したため、銀は使われませんでした。

小地公



→4 銀閣の構造



↑1 金閣(京都市 鹿苑寺) 足利義満は、金閣をつくり、みずからの力を人々に知らしめました。

小地公

←2 金閣の構造

金閣と銀閣の共通点と違う点はあるのかな。



# 華やかさと素朴さが織りなす芸術



↑5 東求堂同仁齋 銀閣と同じ敷地にあり、書院造が取り入れられています。

小地公

↓6 寺で開かれた連歌の様子 皆で和歌(→p.49)をよみ継いでいく連歌は、室町時代に各地で流行しました。[慕淵絵詞]京都市 西本願寺蔵 資料活用 絵の中から、現在の和室や、現代人の食べ物・暮らしと共通する点を挙げてみよう。

「水無瀬三吟百韻」(連歌)

(長享二年正月十二日)

雪ながら山もと霞むたべかな 宗祇  
行く水速く梅匂う里 肖柏  
川風にひとむら柳香みえて 宗長  
船さす音もしるき明け方 宗祇  
月やなほ霧渡る夜に残らん 肖柏  
霜おく野原秋はくれけり 宗長  
なく虫の心ともなく草かれて 宗祇  
垣根をとへばあらはなる道 肖柏



縄文
1 弥生
2 弥生
3 弥生
4 弥生
5 古墳
6 古墳
7 飛鳥
8 奈良
9 奈良
10 平安
11 平安
12 平安
13 鎌倉
14 南北朝
15 室町
16 戦国
17 安土・桃山
18 江戸
19 明治
20 大正
21 昭和
21 令和



↑7 田植えと田楽 太鼓・小鼓や笛の田楽で、掛け声をかけて苗を運ぶのは男性たち、田植えをするのは笠をかぶり着飾った女性たちでした。【『月次風俗図屏風』(部分) 東京国立博物館蔵】資料活用 図8の祭りと比較して、共通点や気づいたことを挙げてみよう。

↑8 壬生の花田植(広島県 北広島町) 鎌倉時代からの風習を伝える豊作を祈る行事で、ユネスコの無形文化遺産に登録されています。

## 4 庶民に広がる室町文化

3節の問い なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか。

学習課題 室町時代には、どのような特色を持った文化が展開したのだろうか。

北山文化と東山文化 幕府が鎌倉から京都に移ったことにより、禅宗や大陸の影響を受けていた武家の文化は、京都の公家の文化と混じり合っていました。



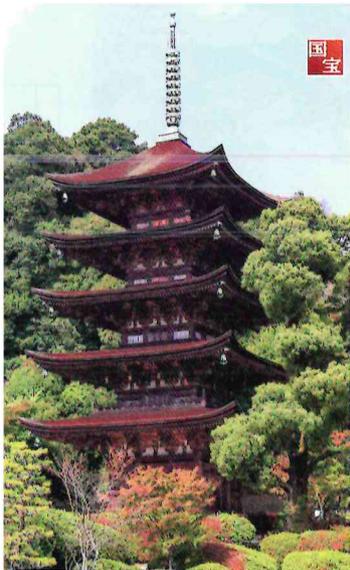
↑9 現在の能【『吉野静』公益社団法人能楽協会提供】



↑10 現在の狂言【『棒縛』シテ 野村万作(右)、アド野村萬斎(左)、政川慎治撮影】

足利義満が京都の北山につくらせた金閣は、公家の寝殿造と武家の禅宗の寺の様式が組み合わせられています。義満のころの文化を北山文化といいます。さらに、南北朝時代の農村や都市でも新たな文化が生まれて、武家や公家に影響を与えていきました。村や寺社などで行われていた猿楽や田楽などの芸能から能が生まれ、能の間には人々の失敗などを題材にした喜劇が演じられ、狂言となりました。能は足利義満の保護を受けた観阿弥と世阿弥によって完成し、その後も歴代将軍に愛されて洗練されていきました。

室町幕府も禅宗を保護し、禅僧は日明貿易の使者としても活躍するようになりました。そのため、室町時代の後半には再び禅宗の影響が強まりました。応仁の乱以後の混乱に背を向けた足利義政は、



←11 瑠瑠光寺の五重塔 (山口市) 大内氏は京風の寺も建てました。大内氏の文化の最高傑作といわれています。



↑12 文化が栄えた主な都市

地図帳活用



↑14 足利学校(栃木県 足利市) 中世唯一の学校で、全国から僧侶や武士が学びに来ました。生徒数は3000人を越え、ザビエル(→p.113)も書簡で「坂東の大学」と紹介しました。



←13 常栄寺雪舟庭 (山口市) 大内氏が、雪舟に命じてつくらせた石庭として伝えられています。

### 地域史 各地に広がった文化

応仁の乱(→p.96)などの戦乱により、多くの公家や文化人が地方の戦国大名を頼って都から下り、京都の文化を地方に広める役割を果たしました。明や朝鮮との貿易で富を得た周防(山口県)の大内氏は、雪舟や連歌師の宗祇などを招いて京都の文化の移植に努めたため、山口は西日本の文化の中心となりました。

京都の東山に禅宗の影響を受けた質素で気品ある銀閣をつくりました。このころの文化を東山文化といいます。銀閣には寝殿造ではなく、禅僧の住まいをまねた書院造を取り入れられました。書院造には床の間があり、そこでは生け花や茶の湯の文化が育まれました。龍安寺などの禅宗寺院では、砂や岩などで自然を表現した枯山水という庭園がつくられ、こうした庭園づくりには河原者が優れた手腕を発揮しました。また、武家や公家は、貿易などによって得た中国の絵画や陶磁器などを唐物とよんで好みました。そのなかには墨一色で描かれた水墨画もあり、明で水墨画を学び、日本の風景を巧みに描いた雪舟のような禅僧も現れました。

### 庶民の間に広がった文化

人々の寄合(集まり)も、この時代の文化を育てました。和歌の上の句と下の句を別の人が次々によみ継ぐ連歌は、元は貴族の遊びでしたが、寄合にふさわしい文化として地方の武士などの間で流行し、諸国を旅する連歌師によって広められました。また、鎌倉時代に栄西が伝えた茶を飲む習慣もこのころに広まり、茶の種類を当て合う集まりなどが開かれ、茶の湯

雪舟 小地公

1420~1506

水墨画の世界を一変させた僧侶



京都で禅の修行をしながら水墨画を学び、さらに腕をみがくため、水墨画の本場である明に渡りました。求める師には出会わず、2年ほどで帰国しましたが、実際に大陸の風物を目の当たりにしたことは、雪舟の画風を一変させ、従来にない大胆な画風の作品を生み出しました。



←19 雪舟の水墨画(『秋冬山水図』東京国立博物館蔵)



↑16龍安寺の石庭(京都市) 石庭の制作に携わった河原者と思われる名前が残っています。

この時代には、京都などのさまざまな寺院で庭園がつくられ、善阿弥など庭園づくりの名手が登場しました。その多くは、河原者とよばれた人々でした。

昔は、死、出血、出産、火事、犯罪などについて、それらは物事の秩序が壊れることであり、「けがれ」が生じると考えました。「けがれ」をおそれる観念は平安時代から強まり、それを清める人々が必要とされていきました。しかし一方で、清めを担う人々は、異質な存在として差別を受けるようにもなりました。河原者も、そのように差別を受けた人々でした。

これらの人々は、庭園づくりや井戸掘り、皮革、芸能などの仕事に携わり、高い技術ですぐれた文化を築いていきました(→巻頭1)。彼らはおそれられましたが、その仕事は社会に不可欠なものでした。

なお「けがれ」は、近代以降に生まれた不衛生という考え方は異なります。

→17死刑に処される僧侶と河原に集まる人々 川はけがれなどさまざまなものを浄化してくれると考えられていました。そのため、刑の多くは河原で行われました。【「法然上人絵伝」京都市 知恩院蔵 京都国立博物館提供】



の先駆けとなりました。さらに、『浦島太郎』や『一寸法師』など、英雄や高僧から庶民までが登場し、動植物を擬人化させたお伽草子とよばれる絵入りの物語もつくられました。それらには、都市の生活や食文化、開発・戦乱・災害など、当時の環境が色濃く反映されていました。

現代につながる生活様式

室町時代に生まれた文化や習慣は、現在にも引き継がれています。盆踊りはこのころの念仏踊りから生まれ、民衆の間で正月や節分、端午の節句、七夕などの

年中行事が行われるようになりました。衣服は、男性が烏帽子を着けなくなるなど、全体に簡単なものになりました。またそれまでの麻に加えて、15世紀後半になると、保温性や吸湿性に優れ、丈夫で肌触りのよい木綿が、しだいに庶民の衣服にも用いられるようになりました。食生活では、禅宗寺院でつくられていたうどんやそうめんなどのめん類、豆腐、こんにゃく、みそなどの食品が広く食べられるようになりました。住居では、畳を敷き詰めた部屋も現れ、書院造は後に住宅の基本となっていきました。「わび」や「さび」といった日本的な感覚も、このころに育まれました。

歴史プラス+ 中世に生まれた「腹の虫」

日本人は、平安時代から虫の音に耳を澄まし、虫を愛でてきました。一方で、地獄にすむ虫も想像してきました。

15世紀に入ると、人体には、いたずらをして時には病気をもたらす「腹の虫」が潜んでいると考えられるようになりました。この考えから、「虫の知らせ」や「腹の虫が治まらない」といった表現が生まれていきました。

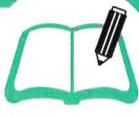
→18「腹の虫」閻魔大王に悪行を告げ口するという虫です。【「針聞書」九州国立博物館蔵】



確認しよう 室町時代に生まれた文化や習慣のなかで、現在も続いているものを、本文から書き出そう。

説明しよう 室町時代とそれまでの文化の違いを、担い手や広がりに着目して説明しよう。

1	誕生
2	
3	
4	
5	古墳
6	
7	飛鳥
8	奈良
9	
10	平安
11	
12	
13	鎌倉
14	南北朝
15	室町
16	戦国
17	安土・桃山
18	江戸
19	明治
20	大正
21	昭和
22	平成
23	令和



3章の問い

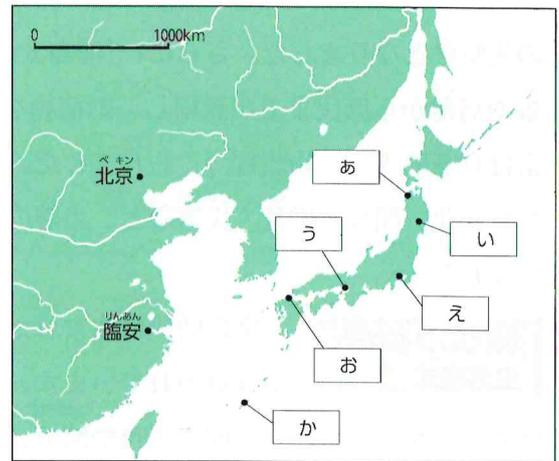
- 武士による政治が行われたことによって、社会はどのように変化したのだろうか。

学習事項の確認

知識

世紀	時代	主な出来事	文化	朝鮮	中国																	
10		935 平将門の乱 ~ 40 939 藤原純友の乱 ~ 41	・かな文字の使用 ・寝殿造・浄土信仰 ・厳島神社 ・鎌倉仏教誕生 ・東大寺南大門 ・東大寺金剛力士像 ・東山文化(銀閣、書院造、禪宗、水墨画) ・北山文化(金閣、能、狂言) ・お伽草子	朝鮮	中国																	
11	平安	1086 白河上皇による院政の開始 奥州藤原氏がA平泉を中心に勢力を振るう 1156 保元の乱 1159 平治の乱				国風文化 鎌倉文化	宋	金														
12		平清盛による政治 日宋貿易のためにB大輪田泊を修築 1180 源平の争乱 ~ 85 源頼朝によるC鎌倉幕府の成立 地頭による荘園や公領の支配 二毛作の開始・牛馬による耕作							高麗	元												
13	鎌倉	1221 承久の乱 1232 御成敗式目の制定 1274 文永の役 1281 弘安の役 E十三湊がアイヌ民族との交易で栄える									室町文化	明										
14	南北朝	1333 鎌倉幕府の滅亡 1334 後醍醐天皇による建武の新政 1338 足利尊氏による室町幕府の成立 南北朝の対立 倭寇の活動											戦国									
15	室町	1392 足利義満による南北朝の統一 勘合貿易の開始 手工業の発達(紙・絹織物・陶器など)													戦国							
		1428 正長の土一揆 F琉球王国の成立															戦国					
		1467 応仁の乱 ~ 77																	戦国			
		下剋上の風潮が高まる																			戦国	

- 1) 時代の特色を考えるにあたって、次の作業を行って、あなたの年表を完成させよう。
  - ① 政治や国際関係の変化で重要であると考えられる出来事に赤いマーカーを、生活や社会の様子について重要と考えた出来事には黄色いマーカーをつけよう。
  - ② 「章の問い」に対する考えをまとめるうえで、大切だと考える出来事を書き足したり、関係のある出来事どうしを矢印で結んだりしよう。
- 2) 地図中の「あ」～「か」の空欄に入るものを、年表内の下線A～Fから選ぼう。



節の振り返り

思考・判断・表現

それぞれの節の学習を振り返って、「節の問い」に対するあなたの考えをまとめよう。

節の問い

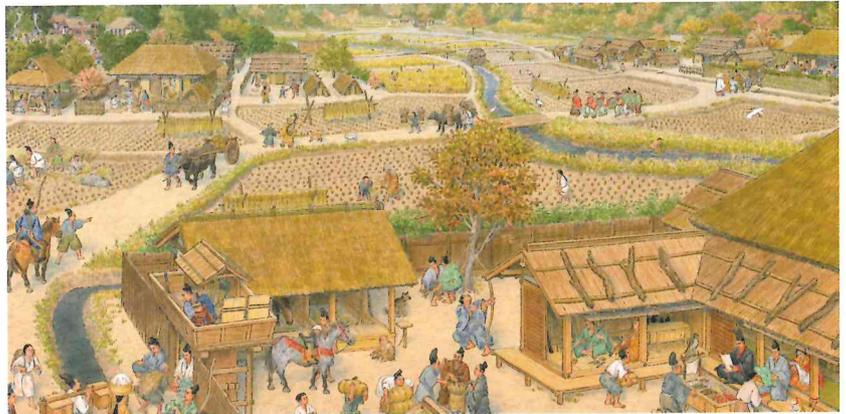
- 1節 p.66~75 なぜ、武士が政治の実権を握るようになったのだろうか。
- 2節 p.78~89 ユーラシア大陸からの影響によって、日本にどのような変化が起こったのだろうか。
- 3節 p.92~101 なぜ、人々は結びつきを強めていったのだろうか。

1 タイムトラベルを活用して振り返ろう。

タイムトラベル「⑤鎌倉時代」「⑥室町時代」を見比べて、大きく変化したことや、重要だと感じたことを見つけよう。また、なぜそう考えたのか、根拠も踏まえて説明しよう。

タイムトラベルを見比べる際は、キーワードを設定し、見方・考え方を働かせよう。

例えば「武士」をキーワードにすると、こんなことに気がつくね。



見方・考え方

見方・考え方 巻頭 8

例えば

支配者層の移り変わりに

推移

着目しよう

p.52~53の「④平安時代」の絵や、「鎌倉時代」「室町時代」の絵を比べて、大きな屋敷にいる支配者層の人々はどのように変化しているだろうか。

相互の関連

人々の持ち物の変化と  
武士との関係に着目しよう

「⑤鎌倉時代」と「⑥室町時代」の絵を比べて、武士以外の人々の持ち物が変化していることには、どのような背景があったのだろうか。



2 ほかの人と話し合っ「章の問い」を考察しよう。対話

1で見つけたことや左の年表にマークしたこと、武士の政治による社会の変化を考えるにあたって重要だと感じたことについて、書き出してあなたの考えを整理しよう。例えば右の表のように、古代・鎌倉時代・室町時代に分けて考えよう。

グループになり、特に重要だと感じたこととその理由を発表し、意見交換をしよう。

発表にあたっては、「節の振り返り」を参考にして、そのことの背景や原因、結果や影響も踏まえよう。

グループでの話し合いで気づいたことを踏まえ、「章の問い」に対するあなたの考えをまとめよう。

重要だと感じたこと

古代	中世	
	鎌倉時代	室町時代
例：王(天皇)や貴族が政治の中心だった	武士が政治を動かす中心となった	各地で独自の支配が行われるようになった

「章の問い」に対するあなたの考え

### 3 時代の特色を考察しよう。 **思考・判断・表現**

①これまでの考察を踏まえて、中世はどのような時代だったかを、あなたの言葉でまとめよう。

**中世の特色**

○  
○  
○  
○  
○  
○  
○  
○

中世は、  [の] 時代である。

なぜなら、  [だ] からである。

②上でまとめたあなたの考えを、タイムトラベルを活用して、発表しよう。



### 「これからの社会を構想しよう」(→p.307) への準備

対話

#### 現在との つながりを考えよう

中世の学習から、現在の社会と共通していると感じたことは何か、また、大きく異なっていると感じたことは何か、右の視点を参考に話し合ってみよう。その際、タイムトラベルも改めて見返してみよう。

**視点**

- ・「おそれ」や「けがれ」の考え方
- ・女性と社会の関わり
- ・人々と災害の関わり

など

#### SDGsとの つながりを考えよう

コラム「未来に向けて」や本文、タイムトラベルなどから、地球的な諸課題と関連していると感じたものを探し、SDGsの17の目標のうちどの目標とつながっているのか、ほかの人と話し合ってみよう。

例えば戦国時代には、川の氾濫にどのように対処していたのかな。

11 住み続けられるまちづくりを

### ● 「学習する時代の見通し」(→ p.63) に戻ってみよう **主体的な学び**

章のはじめにあなたが立てた予想から、あなたの、この時代に対する考えはどのように深まっただろうか。章の学習を通じて感じたことや、さらに深めたいと思ったことを、下の「振り返り」に書いてみよう。

**章の重要語**

- 節や章の問い、時代の特色をまとめる際に使用した用語に✓をつけよう。
- 寄進 (p.66)
- 院政 (p.68)
- 鎌倉仏教 (p.74)
- 蒙古襲来 (p.81)
- 悪党 (p.84)
- 勘合貿易 (p.87)
- 一揆 (p.94)
- 下剋上 (p.96)
- 応仁の乱 (p.96)

**振り返り**

- 章の問い：学習を通して考えをまとめることが
  - よくできた
  - できた
  - あまりできなかった
- 時代の特色をまとめるうえで有効だった「見方・考え方」
  - 時期や年代
  - 推移
  - 比較
  - 相互の関連
- 「学習する時代の見通し」から考えが深まったこと
- 章の学習を通じて感じたこと・さらに深めたいと思ったこと